

令和元年度 国本中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の教育」を基盤とし，豊かな人間性をもち，意欲をもって主体的に生きていくことができる心身ともに健康でたくましい児童の育成

☆ 心豊かで思いやりのある子ども（やさしく）

☆ 自ら学ぶ子ども（かしこく）

☆ 明るく元気な子ども（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

（１） 社会の変化に柔軟に対応する資質・能力をもち，心身ともに健康な児童の育成のために，全職員が校務分掌を分担し，一致協力して学校経営にあたる。

（２） 地域の教育力や，学校のもつ環境資源を生かした教育活動を効果的に実践し，地域・家庭・学校園と連携しながら，社会に開かれた教育課程の具現化を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（１） 「学力の基礎・基本」の確実な定着による学力の向上（かしこく）

○読む力・書く力・聞く力・話す力の確実な定着を目指した授業の改善

・対話型の学びの中で主体的に課題を解決していく力の育成

・読解力の育成を図る学習の充実

・家庭と連携した家庭学習の習慣化

・学力調査の結果を生かしたPDCAサイクルの構築

（２） 心の教育の充実による自己有用感の育成（やさしく）

・宮っ子心の教育を核とした人権尊重の教育の推進

・物事の多面性を理解し，自己を深く見つめる道德教育の推進

○児童の自信と自己有用感を高めるための認め励ます学級経営

・「学校いじめ防止基本方針」を生かしたいじめを生まない指導の充実

・不登校を防ぐための組織的対応

（３） 体力の向上と健康・安全意識の高揚（たくましく）

○体力向上のための多様な運動に取り組む運動機会の確保と方法の工夫

・健康・安全な生活のための能力の育成

・家庭と連携した望ましい食習慣の育成

・学校教育全体を通した危険予測と危険回避能力の育成

（４） 教職員の資質向上を目指す取組

・PDCAサイクルによる教育活動の評価と改善

・信頼される教職員を目指した各種研修の充実

・教職員評価を生かした個人研修の充実

（５） 地域とともにある学校づくりの推進

○学校と地域が情報を共有し，児童の健全育成を図る連携を強化

・地域教育資源（人・物・場所）を効果的に活用した体験活動による郷土愛の涵養

（６） 教員の働き方改革の推進

・教員の業務内容の見直しと勤務時間の適正化

[国本地域学校園教育ビジョン]

「自ら学び 心豊かで 元気な国本っ子」 ～地域とともにある学校をめざして～

4 教育課程編成の方針

- (1) 保護者や地域に信頼される学校教育の展開
- (2) 確かな学力と健康・体力を育む教育の充実
- (3) 本校の特色ある活動を生かした豊かな心と社会性を育む教育の推進

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- 豊かな環境と地域教育力を活用した誰もが安心して学べる活力ある学校づくりの推進
 - ・安全な学校づくり
 - ・児童が安心して楽しく過ごせる学校づくり
 - ・学力の向上を目指す学校づくり

【児童生徒指導】

- 学業指導の徹底による学びに向かう集団の育成
 - ・すべての児童にとって居がいのある温かい雰囲気 of 学級経営の実践

【学習指導】

- 自他を大切にし、共に学ぶ児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 自分の体に関心を持ち、進んで健康・体力の向上に努める児童の育成
 - ・教科体育・保健指導の充実と運動の日常化

【教職員の業務内容・勤務時間の適正化】

- ・重点目標の焦点化による、業務内容の精選・統合
- ・会議・研修内容の見直しと業務の効率化による勤務時間の適正化

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 話す人の方を見て、話の内容を考えながら聞いたり、自分事として聞いたりするよう指導する。 ② 「まず」「次に」「なぜなら…だからです」などの言い方を使った伝わりやすい話し方を指導する。話し合いの際には、観点を明確にするなど、言語活動の充実を図る。 ③ 子供に分かる言葉で学習のめあてを明確にし、児童が意欲をもって学習に取り組めるよう、教材研究を充実させる。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は88%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 聞き方の指導を重点的に行い、自分や友達の考えを比べながら聞けるようにする。 ② 少人数による話し合いの場を意図的に設定する。話し方の型を提示したり観点を明確にしたりすることで、言語活動の充実を図る。 ③ 学習のめあてを明確にし、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。

姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 社会生活を営む上で必要な人権に関する知識・技能・態度などを身に付けられるよう全教科において計画的に学習できるようにし、思いやりやルールを守る心を育てる。 ② 道徳の時間を中心に、道徳的な判断力や心情、実践意欲や態度を養う。 ③ 田植えや稲刈り、ブルーベリー栽培など、緑体験活動を通して豊かな感性を育み、自然や命を大切に、他を思いやる心を育てる。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が86%であり、目標をやや下回った。 【次年度の方針】 ① 実施継続 人権（特に高齢者）に関する知識・技能・態度などを身に付けられるよう全職員で研究を行い、思いやりやルールを守る心を育てる。 ② 道徳のワークシート等に保護者のコメント欄を設けるなどし、学校の取組みの発信を行う。 ③ 実施継続 緑体験活動を引き続き充実させる。 スタンダードダイアリーの「心を育てる50の言葉」を授業や帰りの会で活用し、先人の生き方等に触れ、生き方を振り返る手立てとする。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒教職員・児童の肯定的回答 85%以上	① 「学習のきまり」「生活のきまり」「月別の重点目標」を基に生活目標を設定し、基本的生活習慣や学習習慣の定着を図る。 ② 時間を守って行動できるようにする。生活当番を中心に、校舎内外での声掛けを実施する。 ③ 水道やトイレの使い方、廊下の正しい歩き方について全職員で重点的に指導する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%だったが、児童の肯定的回答は81%で、目標を下回った。 【次年度の方針】 ① 実施継続 「学習のきまり」「生活のきまり」「月別の重点目標」を基に週的生活目標を設定し、基本的生活習慣や学習習慣の定着を図る。 ② 時間を守って行動できるように、校庭での声掛けを実施する。 ③ 水道の使い方、廊下の歩き方について、生活当番の巡視の際など、全職員で重点的に指導する。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童会を中心としたあいさつ運動を継続的に行う。（呼びかけ・ポスター・ゲーム・集会・表彰など） ② 学級ごとにあいさつを推進する取り組みを行う。 ③ 家庭・地域への啓発活動を意図的に行う。（長期休業中のあいさつカードなど）	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 率先してあいさつができるように、児童会を中心としたあいさつ運動を継続して行い規範意識を高める。家庭・地域への啓発も意図的に行う。 ②③長期休業中にあいさつ実践カードを配付し、家庭への啓発を図る。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学期始めの目標の設定の際には、児童の言葉で、具体的な目標を立てるように支援する。また、学期途中や学期末での振り返りを必ず行い次の学期や学年につなげるように支援する。 ② 帰りの会や学級活動、道徳の時間等で頑張っている児童を認め、称賛する。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率が87%で、目標を達成している。 【次年度の方針】 ① 引き続き学期始めの目標作りや学期末の振り返りの活動を続けていきたい。 ② 帰りの会や学級活動、道徳の時間の充実を引き続き図っていきたい。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 歯磨き指導を充実させ、歯磨きの定着を図る。 ② 長期休業中に、歯磨きカレンダーを配布し、家庭に対して歯磨きの啓発を図る。 ③ 病気の予防のため、うがい・手洗いの励行をする。 ④ 健康診断の結果を配付し、早期治療を勧める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率が88%で、目標を達成している。大きな事故もなく学校生活を送ることができた。 【次年度の方針】 ① 引き続き、歯磨き指導の徹底、うがい手洗いの励行を行う。 ② 健康診断の結果を配布し、保護者へ早期治療を促す。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① キャリア教育を推進し、様々な業種から講師を招くことで、多様な職業にふれる機会を作る。 ② 児童が自分の良さや特徴を知ることができるよう、学級活動や道徳の時間の内容を工夫する。 ③ みどり活動と連携し、地域に花を届ける活動を充実させる。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率が87%で、目標を達成しているが、一方将来について明確なビジョンをもてない児童も見られる。 【次年度の方針】 ① 様々な職業にふれる、本や映像などの資料を使う、直接体験するなどの活動を通して、児童のキャリア教育的視野を広げる。 ② キャリアパスポートを活用し、児童が自分のよさや特徴を知ることができるようにする。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 外国語活動の授業時に、ALTと協力して児童に興味をもたせながら授業を進め、英語に対する理解度を常に確認し児童の様子に合った声掛けをする。 ② 教師が言葉の学習の代表として話す姿を示したり、間違っても大丈夫という環境をつくったりして、安心して英語を使ったやりとりができるようにする。 ③ 児童同士が英語を使ったやりとりができる学習活動を取り入れ、コミュニケーションを取りやすい学習環境を設定する。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、85%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 外国語活動の時間では、ALTと協力して児童に興味をもたせながら授業を進め、児童の様子に合った声掛けをする。 ② 英語コーナーを作って、視覚的に英語に親しめるようにする。 ③ 普段の生活の中で英語を使ってやり取りをする場を意図的に設け、英語に慣れ親しむことができるようにする。

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、宇都宮市のよさを知っている。」 ⇒教職員・児童の肯定的回答 80%以上	① 学校行事や地域の行事、生活科・社会科・総合的な学習の時間などで、国本地区や宇都宮市の良さを知る活動を積極的に取り入れる。 ② 本市が「宇都宮の歌」を作った経緯や歌詞の意味などを学年に応じて分かりやすく教えた上で、お昼の校内放送で「宇都宮の歌」を毎日流す。 ③ 本市は県内で唯一の小中学校数が増加し続けている市であり、「餃子の街」として全国的によく知られていることや、人口50万人以上の市を対象とした「住みよさランキング」(東洋経済新報社)で4年連続日本一となっていることなどを折に触れて話題にする。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が91%、児童の肯定的回答は80%で、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 国本地区や宇都宮市の良さに関連する学習内容を教科・領域、行事等で積極的に扱う。その際、事前・事後の指導を充実させ、地域や市の良さを理解できるようにする。 ② 国本地区の良さを伝えるDVDを計画的に視聴できるようにすることや、引き続きお昼の校内放送で、地区で採れたモチ米等の食材を披露したり、れんげまつりの様子を紹介したりして、地域の人との関わりを意図的に知らせることで、地域の良さに気付かせ、愛着をもてるようにする。 ③ 授業参観等で、地域や宇都宮市について学習している様子を公開して、宇都宮市のよさを保護者と共有できるようにする。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童はパソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 図書館利用年間計画をもとに見通しをもって、図書を活用する。 ② ICT機器を活用できそうな教科・単元を洗い出し、各学年で年計に書き込み、情報を共有する。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は85%で、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 図書館利用年間計画・ICT機器の活用計画をもとに見通しをもってそれらを活用する。 ② 児童がパソコンや図書等を学習に活用している様子を授業参観やたより等で取り上げる。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 道德の時間に思いやりの心を育む。 ② 総合的な学習の時間に、高齢者体験等を行い、高齢者に対する理解を深める。 ③ 運動会などの行事に高齢者を招待し、児童とふれあう機会を作る。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率が86%で、目標をわずかに下回った。核家族化が進み、高齢者とのかかわりが薄くなったことが原因と考えられる。 【次年度の方針】 ① 道德の時間や総合的な学習の時間の内容を精選し、高齢者に対する理解や思いやりの心を育むようにする。 ② 引き続き、運動会などの行事に高齢者を招待し、児童とふれあう機会を作る。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒教職員・児童の肯定的回答 80%以上	① みどり活動を通して、自然環境に目を向け自然を守り育てる意識を高める。 ② 稲作活動を通して、自然の豊かさに触れるとともに自然の恵みに感謝する心を養う。 ③ 職員の読み聞かせにおいて、環境や国際理解にかかる書籍を意図的に選択して行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は74%、児童の肯定的回答は83%で目標を上回った。 【次年度の方針】 ① みどり活動や稲作活動等、「持続可能な社会」と関連のある活動を行う際は、それらの関連について児童に指導する時間を設ける。 ② 活動の事後指導の場を設定し、児童自身が活動の意義を考えられるようにする。 ③ 実施計画内に事前・事後指導の要点を示し、全職員で統一した指導を行えるようにする。

	B1 児童は、家庭学習に進んで取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「家庭学習に進んで取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「家庭学習のすすめ」を活用し、その学年で身に付けてほしい学習習慣について、児童や保護者に明確に示す。 ③ 家庭学習の重要性について、学校便りや学年便り、学級懇談会等と呼びかけ、保護者の理解と協力を得る。 ④ 「家庭学習振り返りカード」を活用して、家庭学習の意識化を図り、進んで家庭学習に取り組もうとする意欲をもてるようにする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は80%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 年度始めに配布する家庭学習通信を更新し、家庭学習の意義をより理解できるように示し、さらに懇談会等で保護者の理解と協力を得る。 ② 家庭学習の大切さを「家庭学習のすすめ」を読み上げながら児童に伝え、家庭学習への意欲をさらに高める。
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別な支援を必要とする児童に対し、個別の支援計画を作成し、関係する教職員や保護者と情報共有をして支援の方向性を明確に示す。 ② 教育相談などを通じて、児童や保護者に寄り添った支援ができるようにする。 ③ 必要に応じて校内支援委員会を開き、かがやきルームやセンターとの連携を図っていく。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%であった。 【次年度の方針】 ① 特別な支援を必要とする児童の実態を把握し、関係する教職員や保護者と情報共有をして支援の方向性を示す。 ② 児童に応じた指導方法の工夫を行い、特別な支援を必要とする児童にとっても、分かりやすい授業の展開をする。 ③ 必要に応じて校内支援委員会を開き、個別の支援計画を作成してかがやきルームやSC、センター、保護者との連携を図っていく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 定期的に児童の実態把握に努め、いじめの防止や早期発見に努める。(アンケート調査を年5回実施する。教育相談は年2回実施する。) ② 学校だより・学年だより等でいじめアンケート調査の実施や教育相談などの学校の取り組みを保護者に知らせる。 ③ 道徳の授業公開をする際、いじめ防止を扱った内容を行う。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は96%で、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 定期的なアンケート調査や教育相談により、子供の実態把握と、いじめ防止・早期発見に努め、適切な対処をする。 ② 学校だより・学年だより等でアンケート調査や教育相談などの学校での取り組みを保護者に知らせる。 ③ 道徳の授業公開をする際、いじめ防止を扱った内容を行い、保護者へのいじめ防止活動の周知を強化する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人への児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	① 認め励まし合う場面を授業の中に設定し、どの児童にとっても自分の居場所となるような温かい雰囲気学級経営に努める。 ② 児童の表情を読み取り、挨拶・励まし・称賛等の言葉かけを行うよう心がける。 ③ 報・連・相を大切に、全教員でかわり、必要に応じて、早めに関係機関と連携を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は91%、教職員の肯定的回答は91%で目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 実施継続 お互いをより身近に感じることができるよう気軽な言葉かけを行ったり、主体的に活動する場面・活躍できる場面を授業の中に設定したりする。 ② 実施継続 児童や保護者に積極的にかかわり、普段からの信頼関係づくりに努める。 ③ 実施継続 特に、養護教諭、スクールカウンセラー、市のセンターと積極的に連携を図り、アドバイスをもらいながら指導に活かしていく。欠席状況調査票も活用し、月5日以上欠席累計だけでなく、トータルの欠席累計の状況や遅刻・早退の動きなどを分析し、潜在的な不登校児の早期発見と対応に努める。

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 教職員が異文化への広い知識と理解を率先して身に付け、児童が世界の誰とでも仲良くなれるような国際感覚を養う。 ② 道徳やその他の授業を通して、人権感覚や国際感覚を育てる。 ③ 職員自ら語学研修に励むとともに、関係機関と提携し、実態に応じて日本語指導の時間を設ける。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%で、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 引き続き、教職員が異文化への広い知識と理解を率先して身に付け、児童が世界の誰とでも仲良くなれるような国際感覚を養う。 ② 引き続き、道徳やその他の授業を通して、人権感覚や国際感覚を育てる。 ③ 教職員の校内語学研修を行い英語力向上を励むとともに、関係機関と提携し、児童の実態に応じて日本語指導の時間を設ける。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童がより主体的に関わることができるよう改善を図り、地域の特色を生かした教育活動の充実をめざす。 ② 縦割り班活動や異学年交流を充実させ、明るくいいきとした学校づくりを目指す。 ③ 話し合い活動を充実させ、活気ある学校づくりを目指す。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率が89%で、目標をわずかに下回った。「とても思う」と回答した児童が2.5%増え、「思わない」と回答した児童も2.6%増え、二極化が起こったと思われる。 【次年度の方針】 ① 引き続き、児童がより主体的に関わることができるよう、学校行事を改善していく。さらに、生活科や総合的な学習の時間では、地域の特性を生かした活動を取り入れる。 ② 人権教育を推進し、相手を思いやる心を育てる。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 学習のねらいとまとめを明確にしたわかる授業を実施する。また、ICTやタブレットの活用も推進する。 ② 児童の実態を把握し、習熟度別学習やT・T（ティーム・ティーチング）、かがやきルームでの学習など多様な指導方法を活用し、個に応じた指導の充実を図る。 ③ 公開授業及び研究会や校内研修の実施などを通して、教員の指導力向上に努める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は94%で目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 毎時間、学習のめあてとまとめを明確に板書し、ふりかえりもノートに書くように指導する。 ② 児童の実態を把握し、習熟度別学習やT・T（ティーム・ティーチング）、かがやきルームでの学習など多様な指導方法を活用し、個に応じた指導の充実を図る。 ③ 各学年の担任が協力して教材研究を進め、分かる授業の実践に努める。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 教員と専門スタッフが、互いの専門性を生かしながら切磋琢磨し、学校全体の教育力向上に努める。 ② 地域の人的・物的資源を積極的に発掘、有効活用し、地域との連携・協働体制を整え、チームとして教育活動の充実を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 専門スタッフも含めた組織を明確にし、教職員間で業務内容・役割分担等について共有し、連携につなげていけるように時間と場所を十分に確保する。 ② 教職員一人一人の専門性を生かし、「社会に開かれた教育課程」の実現に努める。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① P D C Aサイクルを確立し、学校行事の精選や練習時間の効率化・短縮化を図る。 ② 校務分掌内の役割分担を明確にし、分掌内等で互いに補い合うなど業務の平準化に努める。 ③ リフレッシュデー等の活用や出勤記録による時間管理を通して、教職員一人一人が勤務時間に対する意識を高め、自身の働き方を見直す。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は83%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 多様な専門性を有する学校スタッフの業務を校務分掌に組織的・計画的に配置する。 ② 業務内容の可視化を図り、職員間の連携を強化する。 ③ P D C Aサイクルによる学校行事の精選校務分掌の見直し等により、業務量の縮減を図る。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園全体研修会等の機会を活用し、部会ごとの重点目標に向けて各校が連携・協力して指導にあたる。 ② 部会の活動内容について報告会を開催するなどして、地域学校園の取組について共通理解を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は91%で、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 地域学校園全体研修会の機会を活用し、部会ごとの情報交換を通して、各校が連携・協力して指導にあたる。 ② 地域学校園内の児童生徒の課題を共有し、あいさつ運動など共通の具体策を同一歩調で行う。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員、保護者、地域の肯定的回答 80%以上	① 地域の人的・物的資源、自然や産業等を生かした体験活動、農園活動、高齢者との交流活動など、本校独自の教育活動を積極的に展開する。 ② 地域の教育力や地域の方々が関わっていることを、機会をとらえて日常的に児童に伝えるとともに、学年便り等で積極的に情報を発信する。 ③ 児童が活動の成果を発表する機会を充実させるとともに、行事の振り返りの場を設け、活動の様子や振り返りカードを校内に掲示するなど、満足感や成就感を高める。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員100%、保護者88%、地域90%とすべての対象で目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 地域の人的・物的資源を含んだ地域の教育力を教育活動へ積極的に取り入れることで、地域を生かした特色ある学校づくりに努める。 ② 引き続き、学校行事等に地域の方々が関わっていることを児童に日常的に伝えるとともに、行事の振り返りの場を設けるなどして児童の達成感や成就感を高める。 ③ ホームページや各種たより等で行事等を積極的に紹介・発信していくことで、本校の特色ある教育活動についての周知を図る。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員、保護者、地域の肯定的回答 80%以上	① 関係諸機関と連携・協力し、児童の安全を確保する。 ② 地域協議会と連携し、地域の施設やボランティア人材のさらなる活用により、教育活動の充実を図る。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員100%、保護者88%、地域90%とすべての対象で目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 家庭・地域・企業等やPTAとの連携をさらに推進し、地域に根差した特色ある学校づくりを目指す。 ② 地域の人的・物的資源を有効に活用し教育活動の充実を図るとともに、より効果的な方法で広く情報を発信していく。

本校の特色・課題等	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員、保護者、地域の肯定的回答 80%以上	① 職員で分担し、月1回校舎内外の安全点検を丁寧に実施する。 ② 異常を発見した場合には、早急に担当者に連絡し、修理等に迅速に対応する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%、保護者は87%、地域は96%あり、十分達成していると思われる。 【次年度の方針】 ① 月一回の職員による校舎内外の安全点検を丁寧に実施する。 ② 異常の際には迅速に修理等を行い、安全を確保する。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童はパソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 校内でタブレットを活用できるよう無線LANとルーターを校舎内に設置する。 ② タブレット及び電子黒板を活用した授業を公開し、教員の指導力向上に努める。 ③ 図書の計画的な購入をする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は85%で目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 図書館利用年間計画をもとに学習に必要な資料を準備する。 ② 教師の指導力向上のため、授業内で児童がパソコンやICT機器を活用しながら学習できるよう研修を行う。
	B2 学校は、栽培・緑化活動を通して、自然体験や体験的な学習を推進している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、栽培・緑化活動を行い、自然に親しんでいる」 ⇒地域の肯定的回答 80%以上	① 全校生で「みどりの少年団」に参加し、教科との関連を図りながら、緑化活動を推進する。 ② 地域の教育力を授業に取り入れるなど、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。	B	【達成状況】 ・地域の肯定的回答は100%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 「みどりの少年団」、「緑化コンクール」等の活動を通じた学校環境緑化活動を引き続き推進する。 ② 「ブルーベリー栽培」「稲作体験」等の体験活動を引き続き推進する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・評価に関する数値的指標は27項目中21項目で達成されており、概ね良好な状況である。 ・「学校の活気・明るく生き生きした雰囲気」に関しては、目標の90%に対し、児童89%と目標には若干届かなかったが学校の教育活動は全般的に概ね良好である。 ・「学習への取組」に関しては、保護者86%（H30は79%）と、家庭学習の取組に改善がみられた。学習のきまりの徹底や家庭との連携等、全校体制での取組が結果としてあらわれた。 ・「宇都宮の良さを知っている」に関しては、保護者の肯定的回答が56%であった。総合的な学習の時間に新たに設置される「宇都宮学」を推進していくとともに、授業参観等で学習の様子を公開し、宇都宮市や地域の良さを保護者と共有できるようにする。 ・「いじめへの取組」に関しては、地域住民の肯定的回答が95%（H30は80%）であった。学校公開・授業参観等でのいじめに関する授業公開や「校内いじめゼロ運動」に関する情報発信が地域住民の啓発につながった。 ・「あいさつ」に関しては、児童の肯定的回答は92%、教職員が100%であるが、保護者は73%（H30は68%）であった。保護者についてはやや上昇したがまだ低い数値である。地域住民は86%（H30は100%）であった。学校ではあいさつをするが、家庭や地域ではできていないと考えられる。学校と家庭・地域が連携・協力して、あいさつ指導を継続する必要がある。 ・「きまりやマナー」に関しては、教職員と地域住民の肯定的回答100%に対し、児童の肯定的回答が81%（H30は83%）、保護者の肯定的回答が85%（H30は86%）であった。今後も学校と家庭が連携・協力し、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を図るなど、指導を継続する必要がある。	
--	--

7 学校関係者評価

【学校経営全般に関すること】

- ・学校評価アンケートの結果、数値指標を上回っている項目が多く見られることから、学校の取組が評価されている。
- ・教職員が真剣に教育活動に取り組んでおり、学校全体がよい方法に向かっている。

【学習に関すること】

- ・教員は、児童一人一人に向き合い、分かる授業の実践に努めている。
- ・児童は、授業中に先生の話をよく聞いたり、進んで話し合ったりと、授業に真剣に取り組んでいる。
- ・教員のきめ細かな指導により、児童の学力向上を図っている。

【児童・生徒指導に関すること】

- ・あいさつについては、今後も学校・家庭・地域が連携・協力して取り組む必要がある。特に、家庭の教育力を向上させるための手立てを講じる必要がある。
- ・感謝の会や給食試食会に参加したが、児童の親切な態度や心温まる接し方にたいへん感心している。今後も心やさしい児童の育成に取り組んでほしい。

【いじめ等に関すること】

- ・いじめをテーマにした授業参観や各種便りでの情報発信は非常に効果的である。今後も学校の取組を積極的に発信し、情報を提供してほしい。
- ・不登校に関する本校の現状を知りとても安心した。今後も、児童一人一人に寄り添い、魅力ある学校づくりに努めてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校経営】

- ・教育課程（教育計画）については、学校の実態に合わせ概ね適切に実施されていると考える。今後も地域の教育力を生かし「社会に開かれた教育課程」の実現に向け取り組んでいく。
- ・会議や打合せ、学校行事等を縮減し、休み時間や放課後の時間を生み出したことで、授業の準備や児童指導の時間が確保され、個に応じた指導の充実が図れた。今後も、児童・教職員双方の視点から、よりよい教育課程の編成・実施に向け、工夫・改善していく。

【学習指導】

- ・学力調査や各種アンケート等の結果から児童の現状と課題を分析し、指導内容や指導方法の周知とその改善を図る。
- ・学業指導に基づいた校内指導体制の構築し、全教職員の共通理解のもと、教材研究の充実や分かる授業の実現を目指す。
- ・校内全体研修会やOJT等を通して、引き続き教員の授業力向上を目指す。
- ・家庭学習の重要性を家庭へ発信し、保護者の理解と協力のもと、引き続き児童の学習の習慣化を図る。
- ・授業参観や学校公開等で、ICT機器や図書資料を活用している授業を実施し、保護者や地域住民の理解を深める。

【児童・生徒指導】

- ・いじめ対策についての取組を引き続き継続し、学校と家庭が連携・協力して「いじめ撲滅」を目指す。
- ・「あいさつ」「きまりやマナー」の指導については、引き続き学校・家庭・地域が連携・協力して行う。
- ・本校が目指す児童像「やさしく、かしこく、たくましく」の実現に向け、教育活動全体を通して「心の教育」の充実を図る。また、「褒める」「認める」場面や「自然体験」「社会体験」活動を通じて、児童の自己肯定感、自己有用感の高揚に努める。
- ・事件事故等が発生した場合には、引き続き、速やかに関係諸機関と連携・協力して課題解決にあたる。

【健康・体力】

- ・保健体育の授業の充実や各種検定の実施等を通して、児童の体力向上を目指す。
- ・体育の授業はもちろん、業間や昼休み等における外遊びを積極的にさせることで、運動に親しませ、体を動かすことの楽しさに気付かせる。
- ・自己の健康に関心をもち、健康管理に自主的に取り組めるよう、保健指導の充実を図る。
- ・家庭や地域、各種団体等との連携・協力を通して、児童の体力向上を目指す。
- ・給食指導を中心に、食に関する指導の充実を図る。